

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年5月10日
【四半期会計期間】	第11期第2四半期（自平成24年1月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	日本ファルコム株式会社
【英訳名】	NIHON FALCOM CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 近藤 季洋
【本店の所在の場所】	東京都立川市曙町二丁目8番18号
【電話番号】	042(527)0555
【事務連絡者氏名】	取締役 阿部 敬史
【最寄りの連絡場所】	東京都立川市曙町二丁目8番18号
【電話番号】	042(527)0555
【事務連絡者氏名】	取締役 阿部 敬史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第10期 第2四半期 累計期間	第11期 第2四半期 累計期間	第10期
会計期間	自平成22年 10月1日 至平成23年 3月31日	自平成23年 10月1日 至平成24年 3月31日	自平成22年 10月1日 至平成23年 9月30日
売上高(千円)	377,934	365,221	1,563,252
経常利益(千円)	27,201	16,948	534,868
四半期(当期)純利益(千円)	15,886	8,438	318,998
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)			
資本金(千円)	162,530	164,130	164,130
発行済株式総数(株)	102,000	102,800	102,800
純資産額(千円)	1,624,209	1,877,280	1,930,522
総資産額(千円)	1,687,712	1,952,762	2,522,926
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	155.75	82.08	3,123.82
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	154.77		3,107.19
1株当たり配当額(円)			600
自己資本比率(%)	96.24	96.13	76.50
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	226,360	466,620	98,811
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	63	3,352	1,200
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	49,902	60,491	47,035
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	1,505,269	1,782,225	1,379,449

回次	第10期 第2四半期 会計期間	第11期 第2四半期 会計期間
会計期間	自 平成23年 1月1日 至 平成23年 3月31日	自 平成24年 1月1日 至 平成24年 3月31日
1株当たり四半期純損失金額 ( ) (円)	414.93	345.42

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益につきましては、関連会社が存在しないため記載しておりません。

4. 第11期第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当社はコンテンツメーカーとして、オリジナリティあふれるゲームコンテンツ及びサービスの創出を行い、その魅力を様々な分野・プラットフォームを通じて世界中のお客様にお伝えすることに努めております。

当第2四半期累計期間の製品部門におきましては、ゲーム大賞やプレイステーションアワード、ファミ通アワードなど、数々の受賞の栄誉に輝いたゲームソフト「英雄伝説 零の軌跡」、「英雄伝説 碧の軌跡」、そしてその原点である「英雄伝説 空の軌跡」からなる「軌跡」シリーズの販売が引き続き好調に推移しました。

また、「英雄伝説 零の軌跡」、「英雄伝説 碧の軌跡」のダブル受賞を記念して「零&碧の軌跡ゴールドセット」を発売しました。PSP市場における当社ファン層の拡大により、「イースSEVEN」をはじめとした既発売製品の需要も喚起され、定番製品として当第2四半期累計期間におきましても毎月着実に販売数を伸ばすことができました。その結果、製品部門の当第2四半期累計期間の売上高は208百万円（前年同期比27.3%減）となりました。

ライセンス部門におきましては、「英雄伝説 空の軌跡」のアニメーションが発売され、好評を博したほか、コミック、小説、アートブック、ドラマCD、フィギュアなど、各種メディアでの展開を進めました。

当社のゲームコンテンツを利用したオンラインゲーム、アプリ開発等の引き合いも活発化しており、スマートフォン端末へのコンテンツ供給も進みました。その結果、ライセンス部門の当第2四半期累計期間の売上高は156百万円（前年同期比72.4%増）となりました。

それらの結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は365百万円（前年同期比3.4%減）、営業利益は15百万円（前年同期比39.1%減）、経常利益は16百万円（前年同期比37.7%減）、四半期純利益は8百万円（前年同期比46.9%減）となりました。

#### (2) 財政状況の分析

資産については、前事業年度末と比較して570百万円減少し1,952百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金の増加402百万円に対して、売掛金の減少968百万円があったことによるものであります。

負債については、前事業年度末と比較して516百万円減少し75百万円となりました。その主な要因は買掛金の減少219百万円、未払法人税等の減少203百万円があったことによるものであります。

純資産については、前事業年度末と比較して53百万円減少し1,877百万円となりました。その要因は、剰余金の配当が61百万円あったことに対して、四半期純利益を8百万円計上したことによるものであります。

#### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末と比較して402百万円増加し、1,782百万円となりました。各キャッシュ・フローの主な状況は、次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は466百万円（前年同期は226百万円の増加）となりました。これは主として、仕入債務の減少が219百万円、法人税等の支払額が207百万円、未払金の減少が56百万円ありましたが、売上債権の減少が968百万円ありましたが、ためであります。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は3百万円（前年同期は0百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものであります。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は60百万円（前年同期は49百万円の減少）となりました。これは配当金の支払いによるものであります。

( 4 ) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

( 5 ) 研究開発活動

当第2四半期累計期間における研究開発活動の金額は、154百万円であります。なお、当第2四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	348,000
計	348,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年5月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	102,800	102,800	東京証券取引所 (マザーズ)	当社は単元株制度は採用しておりません。
計	102,800	102,800	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成24年5月1日から当四半期報告書の提出日までの新株予約権の行使により発行されたものは含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
平成24年1月1日～ 平成24年3月31日		102,800		164,130		319,363

## ( 6 ) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社日本ファルコムホールディングス	東京都立川市曙町二丁目8番18号	41,600	40.46
加藤正幸	東京都日野市	22,000	21.40
重田康光	東京都港区	1,432	1.39
石川三恵子	相模原市南区	1,419	1.38
草野孝之	東京都八王子市	1,419	1.38
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1-2-10	813	0.79
村山富男	東京都立川市	750	0.72
加藤孝雄	千葉県船橋市	620	0.60
谷口悌一	滋賀県彦根市	604	0.58
近藤季洋	東京都東大和市	490	0.47
計	-	71,147	69.21

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 102,800	102,800	
単元未満株式			
発行済株式総数	102,800		
総株主の議決権		102,800	

## 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有株 式数(株)	他人名義所有株 式数(株)	所有株式数の合 計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
計					

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における、役員の異動はありません。



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成23年10月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当第2四半期会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,379,449	1,782,225
売掛金	1,002,750	33,932
製品	6,450	1,741
原材料	5,281	6,703
その他	52,802	55,977
流動資産合計	2,446,735	1,880,580
固定資産		
有形固定資産	12,614	13,127
無形固定資産	3,099	3,282
投資その他の資産	60,477	55,773
固定資産合計	76,191	72,182
資産合計	2,522,926	1,952,762
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	230,520	10,794
未払法人税等	204,886	1,269
賞与引当金	19,350	13,500
その他	137,647	49,917
流動負債合計	592,404	75,481
負債合計	592,404	75,481
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	164,130	164,130
資本剰余金	319,363	319,363
利益剰余金	1,447,029	1,393,787
株主資本合計	1,930,522	1,877,280
純資産合計	1,930,522	1,877,280
負債純資産合計	2,522,926	1,952,762

( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第 2 四半期累計期間】

( 単位 : 千円 )

	前第 2 四半期累計期間 (自 平成22年10月 1 日 至 平成23年 3 月31日)	当第 2 四半期累計期間 (自 平成23年10月 1 日 至 平成24年 3 月31日)
売上高	377,934	365,221
売上原価	97,703	70,837
売上総利益	280,231	294,383
販売費及び一般管理費	254,253	278,573
営業利益	25,977	15,810
営業外収益		
受取利息	166	171
未払配当金除斥益	1,058	966
営業外収益合計	1,224	1,137
経常利益	27,201	16,948
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,599	-
特別利益合計	1,599	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	526	-
特別損失合計	526	-
税引前四半期純利益	28,274	16,948
法人税、住民税及び事業税	265	265
法人税等調整額	12,123	8,244
法人税等合計	12,388	8,509
四半期純利益	15,886	8,438

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	28,274	16,948
減価償却費	3,789	2,657
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,599	-
賞与引当金の増減額(は減少)	3,750	5,850
受取利息及び受取配当金	166	171
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	526	-
売上債権の増減額(は増加)	471,106	968,857
たな卸資産の増減額(は増加)	1,228	3,288
その他の資産の増減額(は増加)	2,189	681
仕入債務の増減額(は減少)	105,326	219,725
未払金の増減額(は減少)	22,127	56,322
未払消費税等の増減額(は減少)	24,553	31,689
その他の負債の増減額(は減少)	4,188	3,681
小計	341,024	673,628
利息及び配当金の受取額	166	171
法人税等の支払額	114,830	207,180
営業活動によるキャッシュ・フロー	226,360	466,620
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	-	2,860
無形固定資産の取得による支出	-	492
敷金及び保証金の差入による支出	63	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	63	3,352
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	49,902	60,491
財務活動によるキャッシュ・フロー	49,902	60,491
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	176,395	402,775
現金及び現金同等物の期首残高	1,328,874	1,379,449
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,505,269	1,782,225

【追加情報】

当第2四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至 平成24年3月31日)
第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
研究開発費	143,564千円	154,459千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
現金及び預金	1,505,269千円	1,782,225千円
現金及び現金同等物	1,505,269千円	1,782,225千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(自平成22年10月1日至平成23年3月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年12月21日 定時株主総会	普通株式	51,000	500	平成22年9月30日	平成22年12月22日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日  
 後となるもの  
 該当事項はありません。

当第2四半期累計期間(自平成23年10月1日至平成24年3月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年12月21日 定時株主総会	普通株式	61,680	600	平成23年9月30日	平成23年12月22日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日  
 後となるもの  
 該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期貸借対照表計上額その他の金額は、前事業年度の末日と比較して著しい変動はありません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を行っておりませんので、該当事項はありません。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(自平成22年10月1日至平成23年3月31日)及び当第2四半期累計期間(自平成23年10月1日至平成24年3月31日)

当社は、ゲーム開発・販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年3月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	155円75銭	82円08銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	15,886	8,438
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	15,886	8,438
普通株式の期中平均株式数(株)	102,000	102,800
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	154円77銭	
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	641	
(うち新株予約権)	(641)	( )
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第2四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年5月9日

日本ファルコム株式会社  
取締役会 御中

### 三優監査法人

代表社員 公認会計士 古藤 智弘 印  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 坂下 藤男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ファルコム株式会社の平成23年10月1日から平成24年9月30日までの第11期事業年度の第2四半期会計期間（平成24年1月1日から平成24年3月31日まで）及び第2四半期累計期間（平成23年10月1日から平成24年3月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、日本ファルコム株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。